保育内容を学ぶために

ここでは、保育の内容について、具体的な教材やその指導のあり方を紹介します。それらの情報をどのように読み取って、実際の保育現場で利用したらよいかを述べていきたいと思います。

●ひとつの例として活用する。

これから述べる指導内容は、ひとつの例です。それとまったく同じことをしたり、同じ素材を使ったりする必要はないのです。各活動は、日本の保育現場で試され、効果があることが経験的にはっきりとしているものを取りだしました。しかし、それらは非常に多くの教材や活動の中から代表として選びだしたものです。大事なことは、それが何を意味するかということです。子どもにとって、また保育にとってどのような意義があり、どのように活用できるかを読みとってほしいのです。

●各々の国や地域の文化や社会の事情の中で利用する。

教材や活動は、あくまで、日本の文化や社会事情の流れの中で、開発されてきたものです。それを、他の文化や社会の中で、そのままに利用することは難しいことが多々あることは十分に考えられます。ここで紹介されている素材がないということもあるでしょう。自然条件が異なり、子どもたちの周りに育つ植物の種類も違うでしょう。文化的な習慣も相当に違っているために、日本では当たり前のことが他の文化では許されなかったり、なじみがなかったりすることもあるに違いありません。ここで紹介されているものをヒントとして、自分たちの身近なところから役立つ素材を探し、また新たな活動を生み出し、すでに身の回りで行われている活動を作りかえて、子どもたちのために用いてほしいと願っています。

●実際に試しながら、新たなものを作り出す。

この本で読んだものをそのまま現場で使っても、すぐにうまくいくとは限りません。子どもも場所も文化も異なるのですから当然です。しかし、その一方で、子どもはどの国であろうと、様々なものに好奇心を働かせ、提示した活動が面白ければ、喜んでその活動に取り組み、そこから何かを学んでいくのです。ただ、教材を提示しただけではすぐに子どもが興味を持つとは限りません。子どもの活動が持続し、発展するには、教師が子どもの反応を見ながら適切な働きかけをし、子どもとのやりとりをすることが必要なのです。実際に試しつつ、自分の園に適した教材や活動を改善し、開発していってほしいのです。自分の園や、他の園の教師たちと知恵を交換し合えば、よい保育が展開されるのです。